

東日本大震災災害派遣活動に参加して



第38普通科連隊 即応予備陸士長 島内 健吾

活動内容：生活支援

即応予備自衛官になって初となる今回の災害派遣は、とにかく全てにおいて鮮明に自分の記憶に残る体験でありました。

地震の当日は、家族みんなで支え合っているなか、自分は「自衛隊からの連絡はいつ来るのか？直接、駐屯地に行くべきか？」と葛藤していた事を今でも覚えています。何よりも気持ちに余裕がなかった状態でした。

派遣は、第2次である3月30日～4月5日までの1週間になりました。当初は、瓦礫の撤去作業や人命救助等の作業がメインとなるだろうと予想していた状態でしたが、今回の活動内容は「炊事、風呂、燃料の交付支援」という命令でした。いざ現地に着いた時には、辺りの景色に衝撃を受け、「これでは被災してしまった人達が入浴や食事が出来ない、暖を取るための燃料不足になるのも無理はない」と感じました。

作業をしていて、現地の人達と話す機会が何回もあり、「自衛隊には本当に助かってます。1週間ぶりにお風呂に入る事ができました」などの話を聞いたり、「おばあちゃんを一人に出来なくて風呂に入る事もできず、ようやく遠方の親類が来たおかげで、この自衛隊のお風呂に入れるようになりました」という、何とも厳しい立場におかれている人達もいるという現実も知りました。

今回のこの派遣は、自分にとってとても大きな糧となる体験であり、これからの訓練等の励みにもなりました。